

案

令和7年2月20日

伊東市教育委員会

教育長 高 橋 雄 幸 様

伊東市教育問題懇話会

会長 篠 原 峰 子

伊東市立小・中学校における適正な学校規模及び配置のあり方について（答申）

令和6年6月27日付け伊教教第115号をもって諮問のあった標記の件については、慎重に審議した結果、下記のとおり答申する。

伊東市教育委員会におかれては、学校規模と配置の適正化に当たり、学校がそれぞれの特色を活かし、子供たちの学校生活を楽しく、胸を躍らせるものにするために、本懇話会の審議経過を踏まえ、本答申を十分に尊重されるよう要望する。

記

1 伊東市教育委員会が目指す学校像「夢と希望を育む学校」の実現に向けた適正な教育環境のあり方について

(1) 学校環境として目指すべき方向性

本市の学校は、子どもたちが生きる力を身に付け、夢と希望を育むことができる環境であるべきである。この「生きる力」を身に付けるためには、「人として備えたい力」・「学びに向かう力」・「命を守る力」の3つの視点での指導が行われることが必要である。

本懇話会としては、学校生活を通して多くの体験や経験をし、努力することの大切さや感謝の心を持つことができ、自己肯定感が高く、社会の中で起きる問題や課題に対応できる力を持ったたくましい大人に育つために、子供の将来的な利益を基準、中心に考えていく教育環境が不可欠であると考えている。また、誰ひとり取り残さない教育を実現するために、学校だけで解決するのではなく、地域やコミュニティあるいは民間事業者との協働により育む体制や環境の整備が必要である。

上記の学校環境の整備に当たり、より多くの、より幅広い層の地域住民の参画の下で、地域やコミュニティ等がそれぞれの特色を活かし、学校や家庭と連携しながら、子どもたちの学びや成長、安心・安全を支えるネットワークの形成が必要である。

(2) 適正な学校運営

本懇話会としては、学校生活において、仲間と達成感を味わう、視野を広く持つ、社会性をたくましく持つ、感謝の心を持つことを学び得ることは最も重要であると考えており、これらを実現するために最優先すべき学校運営は、特別支援学級を除き、小学校、中学校ともクラス替え可能な学級数であり、複式学級は避けるべきであると考えている。

それに加え中学校では、免許外教科担任にならないよう、教科担任制による円滑な学校運営を行うことが望ましいと考えている。

2 当該教育環境の実現を図るための具体的方策について

(1) 宇佐美地区（宇佐美小学校、宇佐美中学校）

- ・ 宇佐美小学校は、令和5年度に単学級が誕生し、今後も単学級がさらに増えることになり、令和11年度（2029年度）に全学年単学級となる見込みである。また、宇佐美中学校は、全学年複数学級を維持しているが、令和12年度（2030年度）に全学年単学級となる見込みである。このことから、遅くとも令和11年度末までに学校環境を整備し、令和12年度4月から施設一体型の小中一貫校とすべきである。
- ・ 小中一貫校になったとしても、単学級が解消されるわけではないが、過去に実施した調査では、学級数が少ない学校が増えた場合の対応について、宇佐美小学校と宇佐美中学校の保護者は他の地区と比べて「児童・生徒数や学級数が学校間で差が生じても現在の学校数のままでよい」を選択する割合が圧倒的に多かったことから、この意見を尊重したい。
- ・ 宇佐美地区は、市内で唯一小学校と中学校で他地区と合流のない地域であり、子どもたちの人間関係においては、概ね小中9年間の教育環境の土壌ができているため、令和12年度4月から施設一体型の小中一貫校という結論ではあるが、他地区の統合等再編を勘案しながら進められたい。
- ・ 将来の本市の状況を考えると、旧市街地地区や市街地近郊の住宅地区との統合等再編を見据えて進められたい。

(2) 旧市街地地区（伊東小学校、北中学校）

- ・ 北中学校は、令和6年度は109人となり、門野中学校（226人）の約半分の規模となっている。1学年は40人程度であり、今後の北中学校の生徒数は、40人に満たない人数で推移し、令和9年度（2027年度）に全学年単学級となる見込みである。全学年単学級となった際の学校環境は、免許外教科担任による授業となる可能性が高く、学

校間での教育環境の格差となることから、北中学校は令和8年度末までに学校環境を整備し、再編により令和9年度4月から新たな通学先を門野中学校又は南中学校の選択制とすることが望ましい。

- ・ 対応としては、川奈小学校と南小学校の統合、東小学校、西小学校、旭小学校の統合の実績を踏まえ「速やかな対応」をお願いしたい。ただし、中学校の学校環境の整備、再編は初めてであることから、慎重かつ着実に進められたい。

(3) 市街地近郊の住宅地区（大池小学校、南小学校、南中学校、門野中学校）

- ・ 大池小学校、南小学校、南中学校及び門野中学校の4校は、少なくとも令和12年度（2030年度）まではクラス替え可能な1学年当たり2学級が維持される見込みである。
- ・ 他の地区と比べると少子化の影響は比較的少ないため、令和12年度末までは現状維持をする。ただし、門野中学校は、いずれは統合又は再編することが望ましい。
- ・ 現状維持をしながらも、今後の児童・生徒数の推移に注視し、将来的には小学校又は中学校間の統合が必要と考える。ただし、現状維持にこだわることなく、統合により児童・生徒数の減少を食い止める等の先手を打つ対策を検討し、手遅れにならないようにすること。

(4) 対島地区（八幡野小学校、富戸小学校、池小学校、対島中学校）

- ・ 八幡野小学校は、令和元年度から令和6年度までは学級数12学級を維持しているが、令和12年度には、全学年単学級になる見込みである。
- ・ 富戸小学校は、平成元年度に全学年単学級となりながらも、児童数100人以上で令和3年度まで推移してきた。しかしながら、令和4年度に児童数は100人を切り、令和10年度には児童数50人を切る見込みである。令和7年度は、2年生が9人、3年生が7人で合計16人となり、複式学級になり得る状況になっている。
- ・ 池小学校は、米作り体験活動等の地域の特性を活かすため、平成19年度に小規模特認校制度を導入し、校区外からも児童を受け入れ、児童数は増え続けていたが、令和6年度から減少となり、令和12年度は児童数38人を見込んでいる。令和7年度以降の新1年生は9人以下を見込んでいることから、複式学級は避けられない状況になる。
- ・ このことから、令和12年度末までに学校環境を整備し、令和13年度4月から対島中学校を含めた小中一貫校とすべきである。
- ・ 小中一貫校とするに当たり、適正地として旧城ヶ崎分校を取得すべきである。ただし、当該土地の取得手続に一定の時間を要する場合は、池小学校と八幡野小学校の統合等の

児童にとって最善の統合を教育委員会で検討した上で、段階的かつ合理的に進めていくこと。

- ・ 池小学校の小規模特認校としての特性は、統合を進めていく上で継承できるかどうか検証をしていくこと。

3 伊東市立小・中学校の規模及び配置の適正化を進めるに当たっての附帯意見

(1) 通学に係る家庭での負担軽減及び送迎場所の確保

- ・ 市立小・中学校の適正化を進めるに当たっては、通学路の安全性はもちろんのこと、スクールバスや通学用の路線バスの確保、通学費等の家庭の負担に対する配慮をされたい。
また、スクールバスや路線バスの利用が難しい家庭においては、自家用車を利用しての通学が想定されることから、学校周辺に送迎場所を確保するよう配慮されたい。

(2) コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進

- ・ 地域学校協働活動により、学校と地域が連携・協働して「学校を核として地域づくり」をし、伝統や文化の継承、郷土愛の醸成、子供たちの健やか成長のために積極的に取り組んでいるが、既にコミュニティ・スクールを導入し、「地域とともにある学校づくり」を進めている学校もある。市立小・中学校の適正化を進めるに当たり、地域の伝統や文化等を現状のまま維持することが困難な状況も考えられるが、そこは地域と学校が連携をさらに深めることで、新たな地域の枠組であったり、新たな地域との関わり方について学校教育や行事の中に組み入れる工夫をするなどの検討を実施されたい。
- ・ 実施に向けて教育委員会は、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進し、伝統や文化の継承はもとより、地域や福祉関係機関と連携・協働することによって不登校への課題に取り組む、市立小・中学校の適正化により新たな教育環境において、誰一人取り残されないよう、子どもたちの学びや成長、安心・安全を支えるネットワークの形成に努められたい。

(3) 中長期的な視点に立った小中学校の構想

- ・ 令和元年8月に策定した伊東市立小・中学校の規模及び配置の適正化に向けた基本方針において、「市内中学校は北部と南部の2校程度に統合し、小学校は北部と中部と南部の3校程度に統合する」などの大幅な適正化の必要に迫られる可能性が高いと明記されていることから、本懇話会においても改めて中長期的な視点に立った小中学校の構想について議論した。

- ・ 懇話会においては、上記の構想以外の多くの意見が出たことから、伊東市教育委員会においては、既存学校との統合という選択肢だけでなく、新たに学校を建設することや、児童・生徒数の推移はさることながら、居住実態の動向等多角的な観点から判断し、中長期的な視点に立った小中学校の構想を決定していただきたい。

(4) 該当する学校の保護者や地域住民等への情報伝達体制の確立

- ・ 本懇話会の答申を踏まえて、次年度に教育委員会として後期計画を策定することだが、該当する学校の保護者や地域住民を中心に、学校適正配置の動向に高い関心を持っている市民は多いことから、後期計画の策定前に当たり、保護者や地域住民説明会等を実施し、後期計画の策定後は速やかにその内容を伝えとともに、その後も必要に応じて伝達する体制を確立されたい。また、本懇話会委員を始め、この答申作成に関わった市議会や校長会、区長会、市P連会長会議といった関係団体に対しても定期的に進捗を報告する体制を設けていただきたい。

(5) 学校統廃合等の適正化を円滑に進める体制の構築

- ・ 学校統廃合等の適正化は、その検討に入ってから地域との協議を経て、実行に移されるまでに一定の期間を要するが、市全体において待ったなしの状況となっている。
- ・ そのため、子供たちの未来を作っていくことが最優先事項であることを踏まえ、専属部署を設置し、可能な限り学校統廃合等の適正化を遅滞なく進めていただきたい。

(6) 新たな学びの場所

- ・ 新たな学校において、居場所をなくした子供たちに、国が進めている学びの多様化学校を設置する等の学びの場所が確保できるよう努めていただきたい。
- ・ また、既に居場所をなくした子供たちにとって、新たな学校が新たな学びの場所になるように努めていただきたい。

4 懇話会の審議状況

	日時・会場	議題
第1回	8月26日（月）5階中会議室 14:00～16:00	・「夢や希望を育む学校」の実現に向けた適正な教育環境のあり方
第2回	10月1日（火）5階中会議室 14:00～16:00	・3校統合の検証報告について ・宇佐美地区、旧市街地地区の具体的方策
第3回	11月15日（木）第2委員会室 14:00～16:01	・市街地近郊の住宅地区、対島地区の具体的方策
第4回	12月24日（火）第2委員会室 14:00～15:18	・宇佐美地区、旧市街地地区、市街地近郊の住宅地区、対島地区の審議結果の確認について ・基本方針にある「市内中学校は北部と南部の2校程度に統合し、小学校は北部と中部と南部の3校程度に統合する」という構想について
第5回	1月27日（月）第2委員会室 14:00～	・答申案について
第6回	2月18日（火）第2委員会室 14:00～	・答申案

5 審議を行った委員

	氏名	選出母体等
会長	篠原 峰子	市議会代表
副会長	稲葉 雅之	学識経験者
委員	飯塚 啓太	P T A代表
〃	石井 照市	区長会代表
〃	関野 耕一	校長会代表
〃	利岡 正基	P T A代表
〃	吉田 勇輝	未来ビジョン会議代表

資 料 編

- 1 令和12年度までの各校の児童・生徒数の推計(教育指導課提供)…………… P7
- 2 児童・生徒数の将来推計(2020年実施の国勢調査)…………… P8
- 3 市内各地区又は学校ごとの概況と今後の見通し
- (1) 宇佐美地区(宇佐美小・宇佐美中)…………… P9
- (2) 旧市街地地区(伊東小・北中)…………… P9
- (3) 市街地近郊の住宅地区(大池小、南小、南中、門野中)…………… P10
- (4) 対島地区(八幡野小、富戸小、池小、対島中)…………… P11
- 4 小中学校の規模及び配置の適正化に向けた検討イメージ(相関図)…………… P13

1 令和12年度までの各校の児童・生徒数の推計(教育指導課提供)

※令和6年度以前の数字は5月1日現在の実数

	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度
伊東小学校(東小学校)	181	176	550	499	467	437	398	365	332	307
西小学校	264	251								
大池小学校	377	368	351	344	340	322	307	287	265	246
宇佐美小学校	330	308	291	261	236	217	187	176	160	143
八幡野小学校	299	276	268	261	250	237	218	204	188	175
富戸小学校	100	92	87	73	71	64	58	49	49	47
池小学校	74	77	76	64	60	51	47	42	37	38
南小学校	587	570	531	513	483	447	405	376	350	326
旭小学校	171	149								
	2,383	2,267	2,154	2,015	1,907	1,775	1,620	1,499	1,381	1,282
南中	579	539	547	526	516	493	476	457	421	396
北中	134	124	118	109	106	102	95	92	85	82
宇佐美中	161	160	147	152	147	147	133	129	120	115
対島中	238	256	230	238	227	232	210	201	187	180
門野中	266	252	223	226	213	205	199	192	178	171
	1,378	1,331	1,265	1,251	1,209	1,179	1,113	1,071	991	944
	3,761	3,598	3,419	3,266	3,116	2,954	2,733	2,570	2,372	2,226
令和6年度対比	495	332	153	0	-150	-312	-533	-696	-894	-1,040

2 児童・生徒数の将来推計(2020年実施の国勢調査)

※国立社会保障・人口問題研究所が令和5年12月22日に公表した「日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)」による

22208 伊東市

男女計	2020年 (令和2)	2025年 (令和7)	2030年 (令和12)	2035年 (令和17)	2040年 (令和22)	2045年 (令和27)	2050年 (令和32)
総数	65,491	62,084	58,442	54,824	51,213	47,590	43,974
0～4歳	1,380	1,098	1,056	1,007	917	790	656
5～9歳	1,837	1,408	1,129	1,090	1,044	952	823
10～14歳(小4～中2)	2,309	1,835	1,412	1,135	1,098	1,055	963
合計	5,526	4,341	3,597	3,232	3,059	2,797	2,442
減少率	100%	78.6%	65.1%	58.5%	55.4%	50.6%	44.2%
減少差		21.4%	13.5%	6.6%	3.1%	4.8%	6.4%

※減少率は、令和2(2020)年の0～14歳人口を100としたときの0～14歳人口の指数から算出している。



	2020年 (令和2)	2025年 (市の推計値)	2030年 (市の推計値)	2035年 (2020年×50.6%)	2040年 (2020年×47.5%)	2045年 (2020年×42.7%)	2050年 (2020年×36.3%)
伊東小学校(東小学校)	189	467	307	326	306	275	234
西小学校	286						
川奈小学校	20						
大池小学校	379	340	246	192	180	162	138
宇佐美小学校	338	236	143	171	161	144	123
八幡野小学校	303	250	175	153	144	129	110
富戸小学校	106	71	47	54	50	45	38
池小学校	75	60	38	38	36	32	27
南小学校	598	483	326	303	284	255	217
旭小学校	170						
小学校計	2,464	1,907	1,282	1,237	1,161	1,044	887
南中学校	574	516	396	290	273	245	208
北中学校	143	106	82	72	68	61	52
宇佐美中学校	157	147	115	79	75	67	57
対島中学校	257	227	180	130	122	110	93
門野中学校	295	213	171	149	140	126	107
中学校計	1,426	1,209	944	722	677	609	518
合計	3,890	3,116	2,226	1,958	1,838	1,652	1,405
減少率	100%	80.1%	57.2%	50.6%	47.5%	42.7%	36.3%
減少差		19.9%	22.9%	6.6%	3.1%	4.8%	6.4%

※減少率は、令和2(2020)年の児童・生徒数を100としたときの児童・生徒数の指数から算出している。

3 市内各地区又は学校ごとの概況と今後の見通し

(1) 宇佐美地区(宇佐美小・宇佐美中)

＜概況及び今後の見通し＞

- ① 宇佐美小は、令和5年度に2年生(31人)が単学級となりました。現4年生以上は、40人以上の児童数ですが、現1年生から3年生までは、30人代の児童数であり、特に1、2年生は、35人前後であることから状況によっては単学級となりうる状況です。
- ② 宇佐美中は、全学年複数学級を維持していますが、現小学3年生(31人)が入学する際に単学級が誕生することになり、その後しばらく、学年によっては単学級となりそうです。
- ③ 児童生徒数は今後も徐々に減少し続け、宇佐美小は、令和11年度(2029年度)に、宇佐美中は、令和12年度(2030年度)に全学年単学級となる見込みです。

※令和6年5月1日時点での1クラスの平均児童・生徒数(特別支援学級を除く。)

	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生	
宇佐美小	35	35	36	18	31	31	49	24.5	45	22.5	49	24.5
	1		2		1		2		2		2	

宇佐美中	57	28.5	47	23.5	48	24	(凡例)	○年生		1クラスの 平均児童・ 生徒数
	2		2		2			37	18.5	
								2		

児童・生徒数 ⇒
学年の学級数 ⇒

＜児童・生徒の実数及び推計値＞

	※ ¹ 2024年	※ ² 2030年	※ ³ 2035年	※ ³ 2040年	※ ³ 2045年	※ ³ 2050年
宇佐美小	261	143	171	161	144	123
宇佐美中	152	115	79	75	67	57
合計	413	258	250	236	211	180
減少率			50.6%	47.5%	42.7%	36.3%

※1 令和6年5月1日時点の実数

※2 令和6年4月時点の教育指導課提供資料による推計値

※3 令和2年5月1日時点の実数に減少率を乗じた推計値

(2) 旧市街地地区(伊東小・北中)

＜概況及び今後の見通し＞

- ① 東小、西小、旭小の3校を統合し、令和5年4月に伊東小学校となりました。児童が集団の中で、多様な考えに触れ、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人ひとりの資質や能力を伸ばしていける環境を作りました。統合後に実施したアンケート結果においては、保護者から概ね統合して良かった旨の評価をいただいているところです。
- ② 北中学校は、昭和62年度は584人で、同年度に創立された門野中学校(566人)とほぼ同規模でしたが、令和6年度は109人となり、門野中学校(226人)の約半分の規模となっています。1学年は、40人程度であり、今後の北中学校の生徒数は、40人に満たない人数で推移していきま

す。令和9年度(2027年度)には北中学校も全学年単学級となる見込みです。

※令和6年5月1日時点での1クラスの平均児童・生徒数(特別支援学級を除く。)

	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生	
伊東小	$\frac{67}{2}$	33.5	$\frac{74}{3}$	24.7	$\frac{73}{3}$	24.3	$\frac{81}{3}$	27	$\frac{77}{3}$	25.7	$\frac{81}{3}$	27
北中	$\frac{37}{2}$	18.5	$\frac{38}{2}$	19	$\frac{34}{1}$	34						

<児童・生徒の実数及び推計値>

	※ ¹ 2024年	※ ² 2030年	※ ³ 2035年	※ ³ 2040年	※ ³ 2045年	※ ³ 2050年
伊東小	499	307	326	306	275	234
減少率			50.6%	47.5%	42.7%	36.3%

北中	109	82	72	68	61	52
減少率			50.6%	47.5%	42.7%	36.3%

※1 令和6年5月1日時点の実数

※2 令和6年4月時点の教育指導課提供資料による推計値

※3 令和2年5月1日時点の実数に減少率を乗じた推計値

なお、伊東小は、旧東小、旧西小、旧旭小の児童数からの推計値

(3) 市街地近郊の住宅地区(大池小、南小、南中、門野中)

<概況及び今後の見通し>

- ① 大池小・南小・南中・門野中は、少なくとも令和12年度(2030年度)まではクラス替え可能な1学年当たり複数の学級が維持される見込みであり、他の地区と比べると少子化の影響は比較的少ない地区と言えます。しかしながら、基本方針において、「将来の本市の状況を考えると、市内中学校は北部と南部の2校程度に統合し、小学校は北部と中部と南部の3校程度に統合するなどの大幅な適正化の必要に迫られる可能性も高い」と明記していることから、この将来的展望を踏まえた教育環境も検討していく必要があると考えます。

※令和6年5月1日時点での1クラスの平均児童・生徒数(特別支援学級を除く。)

	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生	
大池小	$\frac{56}{2}$	28	$\frac{58}{2}$	29	$\frac{58}{2}$	29	$\frac{56}{2}$	28	$\frac{65}{2}$	32.5	$\frac{51}{2}$	25.5
南小	$\frac{73}{3}$	24.3	$\frac{74}{3}$	24.7	$\frac{80}{3}$	26.7	$\frac{96}{3}$	32	$\frac{98}{3}$	32.7	$\frac{92}{3}$	30.7
南中	$\frac{159}{5}$	31.8	$\frac{178}{6}$	29.7	$\frac{158}{5}$	31.6						
門野中	$\frac{69}{2}$	34.5	$\frac{79}{3}$	26.3	$\frac{78}{3}$	26						

< 児童・生徒の実数及び推計値 >

	※ ¹ 2024年	※ ² 2030年	※ ³ 2035年	※ ³ 2040年	※ ³ 2045年	※ ³ 2050年
大池小	344	246	192	180	162	138
南小	513	326	303	284	255	217
小学校計	857	572	495	464	417	355
減少率			50.6%	47.5%	42.7%	36.3%

南中	526	396	290	273	245	208
門野中	226	171	149	140	126	107
中学校計	752	567	439	413	371	315
減少率			50.6%	47.5%	42.7%	36.3%

※1 令和6年5月1日時点の実数

※2 令和6年4月時点の教育指導課提供資料による推計値

※3 令和2年5月1日時点の実数に減少率を乗じた推計値

(4) 対島地区(八幡野小、富戸小、池小、対島中)

< 概況及び今後の見通し >

- ① 八幡野小学校は、現在は全ての学年でクラス替え可能な規模となっていますが、今後も児童数が減少していき、早ければ令和7年度(2025年度)には単学級の学年が誕生し、さらに、同程度の減少で推移していくと令和12年度(2030年度)には全学年が単学級となっている状況です。
- ② 富戸小学校は、10人に満たない学級(現1年生、2年生)が複数ありますが、令和6年度までは全学年単学級での規模が維持されています。しかし、令和7年度(2025年度)以降は、10人に満たない入学者の年度もあり、一部で複式学級の編成となる可能性があります。
- ③ 池小学校は、平成19年度に小規模特認校として、他の学区から指定校を変更して来る児童を受け入れてきました。平成18年度は38人であった児童数は、令和6年度は64人となりました。毎年度10人程度の新入生がいましたが、令和6年度の新入生は5人となりました。早ければ、令和7年度(2025年度)に一部で複式学級の編成となる可能性があります。他の学校と比べて今後の見通しが立ちにくい状況ではありますが、未就学児童の学校区別児童生徒数調べによると、今後5人以下で推移していきます。地域特性を活かした学校ではありますが、急速に児童数が減ることから、将来を見据えた再考が必要です。
- ④ 対島中学校は、今後もゆるやかに生徒数が減少し続けますが、少なくとも令和12年度(2030年度)までは、クラス替え可能な規模は維持できそうです。

※令和6年5月1日時点での1クラスの平均児童・生徒数（特別支援学級を除く。）

	1年生		2年生		3年生		4年生		5年生		6年生	
八幡野小	$\frac{39}{2}$	19.5	$\frac{41}{2}$	20.5	$\frac{41}{2}$	20.5	$\frac{48}{2}$	24	$\frac{46}{2}$	23	$\frac{44}{2}$	22
富戸小	$\frac{9}{1}$	9	$\frac{7}{1}$	7	$\frac{16}{1}$	16	$\frac{14}{1}$	14	$\frac{16}{1}$	16	$\frac{11}{1}$	11
池小	$\frac{5}{1}$	5	$\frac{11}{1}$	11	$\frac{11}{1}$	11	$\frac{10}{1}$	10	$\frac{16}{1}$	16	$\frac{11}{1}$	11

対島中	$\frac{88}{3}$	29.3	$\frac{67}{2}$	33.5	$\frac{81}{3}$	27
-----	----------------	------	----------------	------	----------------	----

< 児童・生徒の実数及び推計値 >

	※ ¹ 2024年	※ ² 2030年	※ ³ 2035年	※ ³ 2040年	※ ³ 2045年	※ ³ 2050年
八幡野小	261	175	153	144	129	110
富戸小	73	47	54	50	45	38
池小	64	38	38	36	32	27
小学校計	398	260	245	230	206	175
減少率			50.6%	47.5%	42.7%	36.3%

対島中	238	180	130	122	110	93
減少率			50.6%	47.5%	42.7%	36.3%

※1 令和6年5月1日時点の実数

※2 令和6年4月時点の教育指導課提供資料による推計値

※3 令和2年5月1日時点の実数に減少率を乗じた推計値

小中学校の規模及び配置の適正化に向けた検討イメージ(相関図)

